

30P-pm160

桑の葉茶のラットにおける糖質吸収抑制作用

○木戸 和貴子¹, 松浦 寿喜¹(¹武庫川女大食)

【目的】消費者の健康志向の高まりから「いわゆる健康食品」の利用が増加している。一方で、その効果を過度に期待したり、誤った利用あるいは粗悪な品質による健康被害もあとを絶たない。本研究では、「血糖に良い」とされる桑の葉を用いた「いわゆる健康食品」の血糖上昇抑制作用を指標として、各社から販売されている桑の葉健康食品の品質を評価した。

【方法】桑の葉茶は、茶葉 10g を熱水 1L で抽出した後、凍結乾燥したものに水を加えて全量 10mL としたものをを用いた。粒状桑葉健康食品は、その 4 粒を水に懸濁した後、水で全量 10mL としたものをを用いた。SD 系雄性ラットの門脈および胃にカテーテルを留置し、胃に留置したカテーテルから 15% スクロース水溶液を 11.25ml/kg/hr の速度で 120 分間持続投与した。門脈血中グルコース濃度が一定となったことを確認したのち、胃カテーテルから桑の葉茶濃縮液あるいは桑葉健康食品を投与し、その後 10 分おきに 150 分まで門脈血を採取した。血液は、遠心分離して血漿とし、富士ドライケムにより門脈血中グルコース濃度を測定した。試験物質投与後の各時間帯の門脈血中グルコース濃度と投与前の門脈血グルコース濃度間の有意差検定は、Bonferroni/Dunn の多重比較検定により行った。

【結果および考察】桑の葉茶 5 品目の血糖上昇抑制作用持続時間は、それぞれ A 社 170 分、B 社 90 分、C 社 160 分、D 社 130 分および E 社 10 分であった。一方、粒状健康食品 2 品目では、F 社 110 分であったものの G 社のものでは効果が認められなかった。以上の結果より、桑の葉健康食品の血糖上昇抑制作用に大きなバラツキがあることが明らかになり、有効性を指標とした健康食品の品質は製品により均一でないことが示唆された。